

優秀賞

小学生部門

京都市中京区

京都市立高倉小学校4年

弓削 和花奈

平和とわたし

わたしは、今年夏の旅行に長崎県に行きました。戦後七十年の今年、原爆がなぜ落ちたのか家族で見に行こうと思いました。今までわたしは、「平和」について、そして「戦争」について深く考えたことがなかったからです。

平和記念公園に入ってすぐに平和の泉があります。

「のどが乾いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとうあぶらの浮いたまま飲みました」

これは、石ひに記された言葉です。わたしは、これを読んで、ショックを受けました。

「どうして人は、戦争をおこしてしまったのだろう…。どうして、原爆が落とされなければならなかったのだろう」

悲しみと、いかりがこみ上げ、のどのおくがいたくなる思いがしました。

長崎原爆資料館では、一九四五年八月九日長崎に投下された原爆について、多くの資料がありました。黒こげの焼死体の写真が目にとまりました。戦争のおそろしさ、ひさんさ、苦しみを感じました。こうして、本当にあった戦争を知り、考えることでより平和な今のくらしが大切だと分かりました。

『平和とはどういうことなのか』

この旅行を通して、考え続けていました。わたしの名前には、平和の“和”がついています。両親にどういう思いで“和”をつけたのかたずねてみました。

平和なくらしができるようにというねがいがかめられていると知りました。また、人と和むことができるように、そして、人とたくさんつながっていけるようにと両親がねがってつけてくれました。

わたしの『平和について』の答えは、わたしの名前にあることに気づきました。自分の名前にはほりをもつて生きていきたいです。